
京都府・学力レポート 2011

(要約版)

京都府学力診断テストを活用した学力の経年比較に関する調査研究

京都府小学校基礎学力診断テスト開始後 20 年の節目に当たり、当センターでは蓄積された過去のデータとテスト問題を活用して、問題難易度や学力を年度間比較する調査研究（平成 22 年 6 月着手）を行い、標題の報告書にその方法と結果をまとめた。このリーフレットはその要約である。



— 小学校 4 年算数のテスト問題 平成 3(1991)～23(2011)年度 —

この調査研究では相当数の児童生徒を対象とした調査テストの実施を必要としました。ご協力いただきました京都府内の市町(組合)教育委員会，小中学校に深く感謝致します。

平成 23 年 6 月

京都府総合教育センター

問題と目的

調査研究の目的	「京都府(基礎)学力診断テストが測定する学力」の経年推移を把握する。
比較の必要性	学力向上策の検証・改善のためには、学力の経年比較が重要である。
学力把握の現状	国内には、小中学校の児童生徒の学力を経年で追う報告は非常に少ない。
京都府の強み	平成3年度に自作の学力テストを小学校で初めて実施し、今日まで継続してきた。

方法

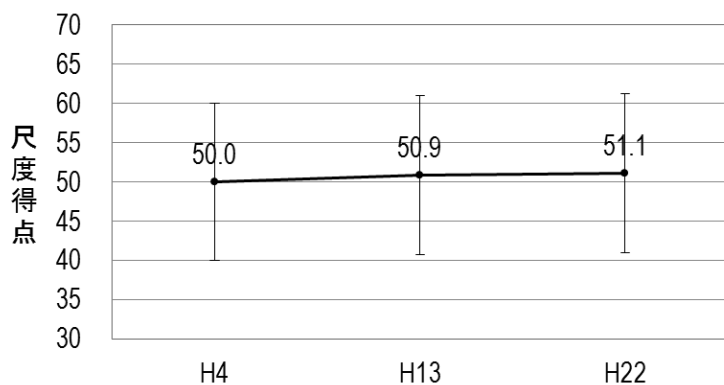
比較対象年度	小学校 9年間隔 H4(1992)－H13(2001)－H22(2010) 中学校 3年間隔 H15(2003)－H18(2006)－H21(2009)
学力テスト概要 (全員受検)	小学校 国語・算数, 小6対象, 4月実施, 小5までの内容 中学校 国語・数学・英語, 中2対象, 10月実施, 中2・1学期までの内容
比較の手法	1) 比較対象とした過年度テスト問題から構成された調査テストを作成 2) 児童生徒を対象に調査を実施し, 正誤データを収集 3) 2) で得たデータをモノサシとして, 尺度を共通化(項目反応理論による)
調査テスト 問題数	小学校 国語 13/30－13/30－13/25 計 39/85, 算数 14/30－14/25－14/25 計 42/80 中学校 国語 16/25－16/25－10/25 計 42/75, 数学 17/25－17/25－17/25 計 51/75 英語 14/30－14/30－11/25 計 39/85
調査参加者	平成22(2010)年度の小学校5年生, 平成22(2010)年度の中学校2年生
調査協力校	京都府内17市町(組合)教育委員会から50校(小学校30, 中学校20)
調査時期	小学校:平成23(2011)年1～3月, 中学校:平成22(2010)年11・12月
使用した データ数	比較した受検者(人) 調査データ(人) 小学校 H4:約14,600－H13:約11,300－H22:約11,500 国709, 算775 中学校 H15:約10,300－H18:約9,800－H21:約9,500 国557, 数421, 英367

学力値の換算(尺度得点)
全受検者の学力値は概ね-4から+4の範囲で推定される。解釈しやすくするために比較初年度(小H4, 中H15)を基準年度とし, 初年度の受検者の平均が50点, 標準偏差が10点となるように換算した。これを「尺度得点」と呼ぶ。

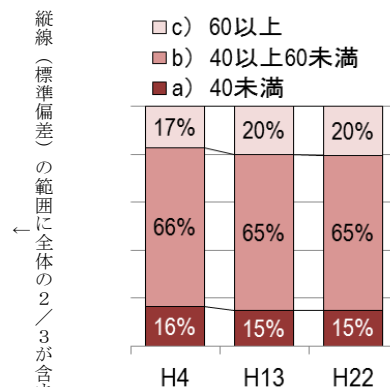
尺度得点は標準化されているので, 全教科とも比較初年度は, 平均50点, 標準偏差10点で揃っている。また, 学力層についても, 比較初年度の割合は, 全教科とも, 学力a層(40点未満)が初年度受検者の約1/6, 学力b層(40～60点)が約2/3, 学力c層(60点以上)が1/6で揃っている。平均・学力層とも, 比較初年度のこれらの値を基準として, 以後の年度の推移を見ることになる。

結果と考察

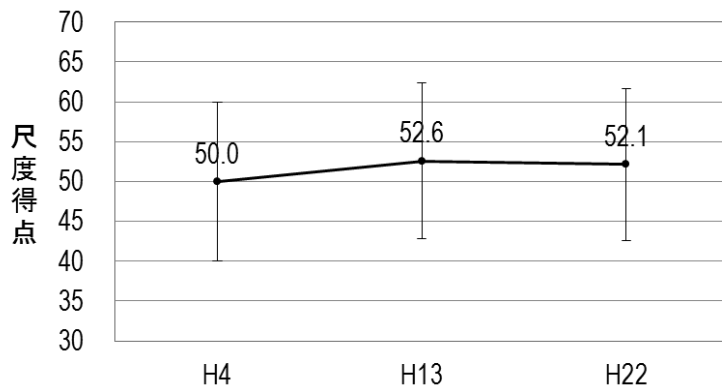
【小学校】H4から18年経過したH22においても, 学力は低下していない。むしろ上昇した。



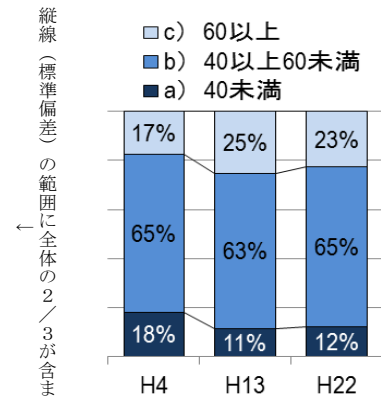
国語:平均値の推移



国語:学力層の推移



算数：平均値の推移



算数：学力層の推移

◇H4・H13年度の比較：小1～小5の授業時数に差がないにもかかわらず、H13年度の平均値が高い。

→京都府小学校基礎学力診断テストを継続して実施したことによる3つの効果

- ①テスト問題による達成目標の明確化 ②指導事項の脱落を防止 ③資料・講座による自校課題把握

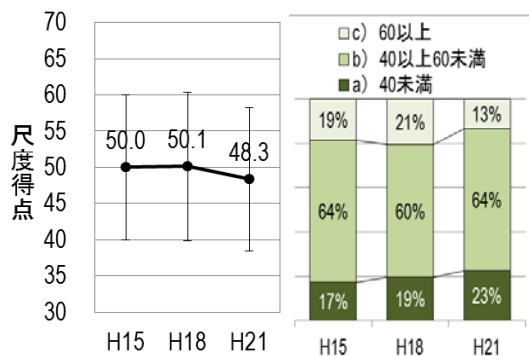
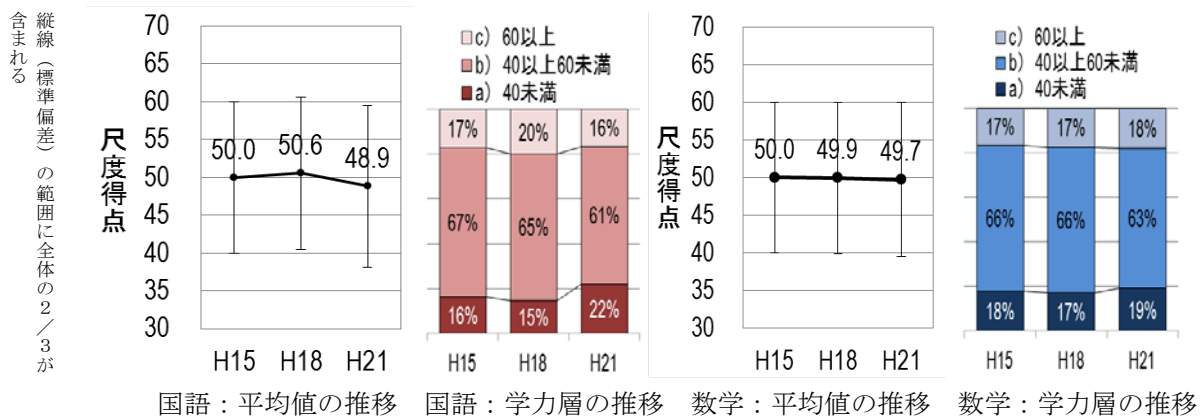
◇H13・H22年度の比較：授業時数減少(国 1391→1202, 算 836→719)にもかかわらず、差がない。

→「子どものための京都式少人数教育」による3つの効果

- ①活用方法の選択 ②加配教員による教科指導の牽引 ③研究協議会・発表会による実践の府内波及

【中学校】平成15年度と平成18年度の間には差はないが、平成21年度の国語・英語は低い。数学は同程度。教科による差はあるが、平成21年度のa(40未満)層の割合が増加傾向。

※小学校調査の9年間隔18年間に対して、中学校は3年間隔6年間(1/3)と短いことに注意。



英語：平均値の推移 英語：学力層の推移

◇「子どものための京都式少人数教育」は、英語より数学に効いている。

◇H15・18年度に比べ、H21年度a層が高比率となっていることへの対策の必要性

→テストは中学校前半の学力を測定している。3学年になればa層の割合は増すと推測される。

「振り返りスタディ」等の事業や学生・地域ボランティアの支援など、外部の力も活用して、家庭学習の定着を含めた、入学直後から基礎基本を徹底して習得させる総合的・継続的な対策が望まれる。また、生徒指導上の影響も背景にあると考えられるので、その対策も併せて必要。

資料

国										京都府																		
										小学校					中学校													
完全学校週5日制への移行	小学校学習指導要領の改訂	中学校学習指導要領の改訂	相対評価から目標標準評価	教育基本法の改正	PISA 全国学力・学習状況調査	定数改善	年度	府学力診断テスト					府学力診断テスト					年度	施策等									
								調査対象年度児童■		子どものための 京都式少数人数教育 実施校数 (京都市を除く)			調査対象年度生徒■		子どものための 京都式少数人数教育 実施校(時)数 (京都市を除く)					H4	H13	H22	H15	H18	H21			
								授業 時数	少人数 授業/ TT	少人数 学級 指導 補助 低学年	少人数 学級	指導 補助 低学年	少人数 授業/ TT	少人数 学級	英 数 少 人 数	全 中 学 1 年 英												
																	小1									小2	小1	小2
4月 実施	国	算	国	算	英	英	10月 実施	英	算	英	算	英	算	英														
学校週6日制	S52告示 小学校学習指導要領	中学校学習指導要領					S61(1986)											S61										
							S62(1987)	小1	272	136							S62											
							S63(1988)	小2	280	175							S63	京都国体										
							H元(1989)	小3	280	175							H元											
							H02(1990)	小4	280	175							H02											
							PISA学年 小1	第1回	小5	210	175							H03										
								第2回	小6	1322	836							H04										
								第3回											H05									
								第4回											H06									
								第5回											H07									
								第6回	小1	306	136	← 同じ児童生徒 →					小1		H08									
							第二土曜日 第二・四土曜日	H元告示 小学校学習指導要領	中学校学習指導要領					H05(1993)											H05			
H06(1994)														H06														
H07(1995)														H07														
H08(1996)														H08														
H09(1997)	第7回	小2	315	175													H09											
H10(1998)	第8回	小3	280	175													H10											
H11(1999)	第9回	小4	280	175													H11											
PISA2000	第10回	小5	210	175	授業 TT									授業 TT			H12											
	第11回	小6	1391	836	7次改善									7次改善			H13	学力テスト10年間のまとめと学力 充実の方策										
	第12回																		H14	『京のこども、夢・未来』プラン21								
	第13回																		H15									
完全学校週5日制	H10告示 小学校学習指導要領	中学校学習指導要領												H14(2002)											H14			
							PISA2003	第13回			104	57	小1 補助	小2 補助				第1回	中2	小5	小2	65	16	中1 数	中1 英	H15		
								第14回			159	28	81	87				第2回	小6	小3	84	11	(時間数)	H16				
								第15回	小1	272	114	132	41	83	77				第3回	中1	小4	80	16	133	234	H17		
								第16回	小2	280	155	137	37	92	80				第4回	中2	小5	81	18	128	199	H18		
								第17回	小3	235	150	132	43	72	80				第5回			小6	81	20	148	179	H19	
								第18回	小4	235	150	124	64	84	66				第6回			中1	81	28	152	153	H20	
								第19回	小5	180	150	120	72	85	84				第7回			中2	79	25	192	159	H21	
								第20回	小6	1202	719	114	69	74	83				第8回			78	26	147	185	H22		
								第21回						(集計中)					第9回	(集計中)					H23	京都府教育振興 プラン		

※表は平成23(2011)年5月20日現在

小	中	学習指導要領改訂の変遷			
S36	S37	実施	教育課程の基準としての性格の明確化	道徳の時間の新設／系統的な学習の重視／等	
S46	S47	実施	教育内容の一層の向上(教育内容の現代化)	時代の進展に対応した教育内容の導入／算数に集合	
S55	S56	実施	ゆとりある充実した学校生活の実現(学習負担の適正化)	各教科等の目標・内容を中核的事項に絞る	
H04	H05	実施	社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成	生活科の新設／道徳教育の充実	
H14	H14	実施	基礎・基本を身に付けさせ、自ら学び自ら考える力など「生きる力」を育成	教育内容の厳選／総合的な学習の時間の新設	
H23	H24	実施	「生きる力」の育成、基礎的基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成のバランス	小学校外国語活動の導入	

子どものための
京都式少数人数教育

「教師力」向上の
ための指針
学校改善支援プラン

振り返り
スタディ